



【プロフィール】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科歯科大学循環器内科主任教授。2020年5月から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、前日本循環器病予防学会理事長。

人生100年時代の健康管理

桐生大学衛生学部長・泌尿器科長 山科 章

前回「腹囲は何センチ トルで、メタボリック

です」というタイプ シンドローム(以下メタボリック)の定義は、腹囲が男性85センチ、女性90センチ以上です。図は67歳男性のCT(コンピュータ断層撮影)による内臓脂肪計測のリポートです。図の前面中央にあるのがへそです。青色の部分は皮下脂肪、赤色の部分が内臓脂肪です。後方で

① 内臓脂肪と皮下脂肪

計測結果

全脂肪面積	306.40 cm ²
内臓脂肪面積	172.89 cm ²
皮下脂肪面積	133.51 cm ²
体周囲長	91.19 cm
V/S比	1.29
内臓脂肪面積/全脂肪面積率	56.4%



診断結果

【内臓脂肪量による診断】内臓脂肪型肥満
内臓脂肪蓄積型の肥満の傾向があります。

内臓脂肪型肥満とは？

男女とも100cm²以上で「内臓脂肪型肥満」の疑いがあります。(2005年日本肥満学会)注)今回の検査は、体内の脂肪量を計測するものです。ガンなどの病気を調べる検査ではありません。

V/S比とは？

皮下脂肪面積(体積)Sと内臓脂肪面積(体積)Vの比率で、0.4未満は皮下脂肪型肥満、0.4以上は内臓脂肪型肥満と分けられています。

白く見えているのは背骨で、皮下脂肪のすや内側や背骨のすや両脇にあるグレーの部分には筋肉です。内臓脂肪の間に見えるのは腸管や血管などです。

大勢の人にCT撮影と腹囲計測を行い、内臓脂肪面積が100平方センチに相当する腹囲が男性で85センチ、女性で90センチだったので、腹囲の基準は男性85センチ、女性90センチになりました。

また、内臓脂肪はアディポサイトカインと呼ばれるさまざまな生

理活性物質を分泌して、直接的にも動脈硬化を促進させ、糖や脂質の代謝をかき乱すだけでなく、肝臓を経由して血液へと運ばれ、脂質異常症を引き起こします。

※次回又はメタボリックシンドロームの診断基準です。

内臓脂肪と皮下脂肪を測定するCT検査のリポート

でも、それが複数重なる代謝異常を起し、動脈硬化が進行すると、紹介しました。

メタボと診断する必須条件は、そのレベルの腹囲が男性85センチ、女性90センチ以上です。図は67歳男性のCT(コンピュータ断層撮影)による内臓脂肪計測のリポートです。図の前面中央にあるのがへそ

です。青色の部分は皮下脂肪、赤色の部分が内臓脂肪です。後方で

大きく見えているのは背骨で、皮下脂肪のすや内側や背骨のすや両脇にあるグレーの部分には筋肉です。内臓脂肪の間に見えるのは腸管や血管などです。

◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。

保健・福祉